

## 2.火山の概況 (平成19年11月30日～平成19年12月6日)

気象庁は平成19年12月1日より、噴火警報及び噴火予報の発表と噴火警戒レベルの導入を開始した。

噴火警報及び噴火予報は、全国の活火山を対象に発表し、内容には警戒事項や警戒等が必要となる市区町村を明示している。噴火警報は、わかりやすさと速報性の観点から、噴火警報には火口周辺や居住地域等の対象範囲を表す語を付した名称及びその略称を用いている(表1-1、1-2、1-3)。噴火予報は、噴火警報を解除する場合や静穏(平常)な状態が続くときなどに発表する。

噴火警戒レベルは、火山活動の状況を噴火時等にとるべき防災対応を踏まえて5段階に区分したもので、それぞれのレベルにはとるべき防災行動を示すキーワードを付している。噴火警戒レベルは16火山に導入し、噴火警報または噴火予報で発表する(表2、図2)。

噴火警報及び噴火予報と噴火警戒レベルの実施に伴い、従来の火山情報(緊急火山情報、臨時火山情報、火山観測情報)と火山活動度レベルは廃止した。

現在の噴火警報及び噴火予報発表状況は以下のとおりである。

### 火口周辺警報

[噴火警戒レベル2、火口周辺規制]: 桜島、薩摩硫黄島、口永良部島、諏訪之瀬島

[火口周辺危険]: 三宅島、硫黄島

### 噴火警報(周辺海域)

[周辺海域警戒]: 福徳岡ノ場

### 噴火予報

[噴火警戒レベル1、平常]: 樽前山、北海道駒ヶ岳、岩手山、吾妻山、草津白根山、浅間山、富士山、伊豆大島、九重山、阿蘇山、雲仙岳、霧島山(御鉢、新燃岳)

[平常]: 上記以外の火山

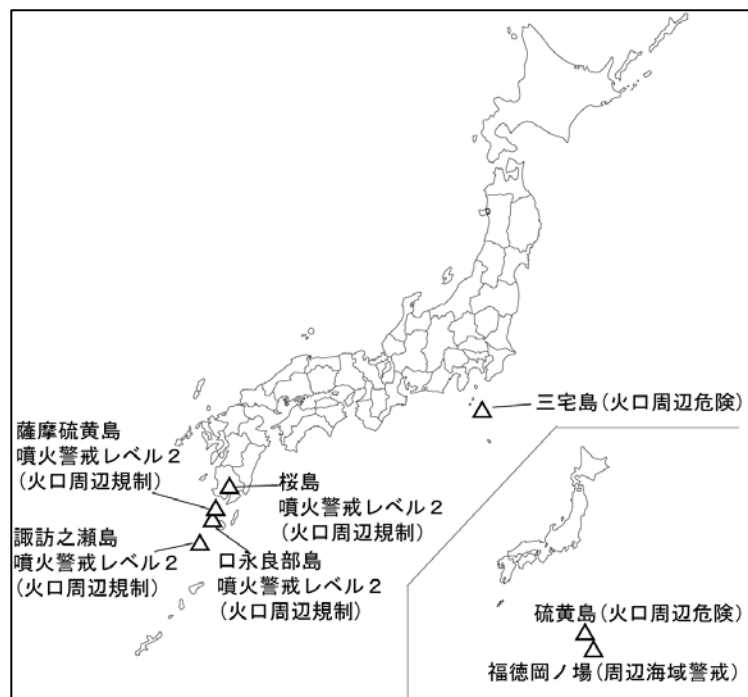


図1 噴火警報の火山

## 【各火山の活動状況及び予報警報事項】

噴火警報の火山の活動状況及び予報警報事項は以下のとおりである。その他の火山は、活動状況に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められない。

### 三宅島<sup>みやけじま</sup>[火口周辺警報、火口周辺危険]

12月4日に行った現地調査では、二酸化硫黄の放出量は一日あたり1,400~2,000トン（前回11月21日、1,800~2,500トン）と依然として多量の火山ガス放出が続いている。

噴煙高度は火口縁上100~200mで推移した。火山性地震はやや多い状態が続いている。

三宅島では火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されるので、火口周辺では噴火等に対する警戒が必要である。また、風下にあたる地区では火山ガスに対する警戒が必要である。雨による泥流にも注意が必要である。

### 硫黄島<sup>いおうとう</sup>[火口周辺警報、火口周辺危険]

国土地理院及び防災科学技術研究所の観測によると、地震活動は11月頃から落ち着いた状態で経過しているが、島全体が大きく隆起する地殻変動は鈍化したものの現在も継続している。

硫黄島では火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されるので、従来から小規模な噴火がみられていた領域では警戒が必要である。

### 福德岡ノ場<sup>ふくとくあかのば</sup>[噴火警報（周辺海域）、周辺海域警戒]

海上保安庁、第三管区海上保安本部及び海上自衛隊が行った最近の上空からの観測では、福德岡ノ場付近の海面に、火山活動によるとみられる変色水が確認されている。

福德岡ノ場では小規模な海底噴火が発生すると予想されるので、周辺海域では警戒が必要である。

### 桜島<sup>さくらじま</sup>[火口周辺警報、噴火警戒レベル2（火口周辺規制）]

今期間、噴火は観測されなかったが、長期にわたり噴火を繰り返している。

火山性地震及び火山性微動は、消長を繰り返しながらやや多い状態が続いている。

国土地理院のGPS観測によると、始良カルデラ（鹿児島湾奥部）の地下深部へのマグマ注入によると考えられる長期的な膨張が続いている。

桜島では今後も南岳山頂火口及び昭和火口の周辺に噴石を飛散させる程度の小規模な噴火が発生すると予想されるので、これらの地域では噴火に対する警戒が必要である。

### 薩摩硫黄島<sup>さつまいおうじま</sup>[火口周辺警報、噴火警戒レベル2（火口周辺規制）]

硫黄岳山頂火口の噴煙活動はやや活発な状態が続いており、噴煙高度は火口縁上概ね100mで推移した。火山性地震はやや多い状態が続いている。

薩摩硫黄島では硫黄岳山頂火口から半径約1kmの範囲に噴石を飛散させる程度の小規模な噴火が発生すると予想されるので、これらの地域では噴火に対する警戒が必要である。

### 口永良部島<sup>くちのえらぶじま</sup>[火口周辺警報、噴火警戒レベル2（火口周辺規制）]

火山性地震及び火山性微動は消長を繰り返しながらやや多い状態が続いている。

口永良部島では新岳火口から半径約1kmの範囲に噴石を飛散させる程度の小規模な噴火が発生すると予想されるので、これらの地域では噴火に対する警戒が必要である。

### 諏訪之瀬島<sup>すわのせじま</sup>[火口周辺警報、噴火警戒レベル2（火口周辺規制）]

11月30日~12月2日に御岳火口で爆発的噴火が発生したほか、小規模な噴火が時々発生した。

火山性地震及び火山性微動は消長を繰り返しながらやや多い状態が続いている。

諏訪之瀬島では今後も御岳火口から半径約1kmの範囲に噴石を飛散させる程度の小規模な噴火が発生すると予想されるので、これらの地域では噴火に対する警戒が必要である。

表 1 - 1 対象範囲を付した噴火警報の呼び方及びキーワード（噴火警戒レベル導入火山）

予報及び警報の名称	対象範囲を付した警報の呼び方	対象範囲	レベル (キーワード)	火山活動の状況
噴火警報	噴火警報(居住地域) ↓ (略称) 噴火警報	居住地域及びそれより火口側	レベル5 (避難)	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生、あるいは切迫している状態にある。
	レベル4 (避難準備)		居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生すると予想される(可能性が高まっている)。	
	噴火警報(火口周辺) ↓ (略称) 火口周辺警報	火口から居住地域近くまでの広い範囲の火口周辺	レベル3 (入山規制)	居住地域の近くまで重大な影響を及ぼす(この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ)噴火が発生、あるいは発生すると予想される。
	火口から少し離れた所までの火口周辺	レベル2 (火口周辺規制)	火口周辺に影響を及ぼす(この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ)噴火が発生、あるいは発生すると予想される。	
噴火予報	-	火口内等	レベル1 (平常)	火山活動は静穏。 火山活動の状態によって、火口内で火山灰の噴出等が見られる(この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ)。

表 1 - 2 対象範囲を付した噴火警報の呼び方及びキーワード（噴火警戒レベル未導入火山）

予報及び警報の名称	対象範囲を付した警報の呼び方	対象範囲	警戒事項等 (キーワード)	火山活動の状況
噴火警報	噴火警報(居住地域)* ↓ (略称) 噴火警報	居住地域又は山麓及びそれより火口側	居住地域又は山麓及びそれより火口側の範囲において嚴重に警戒 (居住地域嚴重警戒**)	居住地域又は山麓及びそれより火口側に重大な被害を及ぼす程度の噴火が発生、あるいは発生すると予想される。
	噴火警報(火口周辺) ↓ (略称) 火口周辺警報	火口から居住地域近くまでの広い範囲の火口周辺	火口から居住地域又は山麓の近くまでの広い範囲の火口周辺における警戒 (入山危険)	火口から居住地域又は山麓の近くまで重大な影響を及ぼす(この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ)程度の噴火が発生、あるいは発生すると予想される。
	火口から少し離れた所までの火口周辺	火口から少し離れた所までの火口周辺における警戒 (火口周辺危険)	火口周辺に影響を及ぼす(この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ)程度の噴火が発生、あるいは発生すると予想される。	
噴火予報	-	火口内等	平常	火山活動は静穏。 火山活動の状態によって、火口内で火山灰の噴出等が見られる(この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ)。

\*居住地域が不明確な場合は「噴火警報(山麓)」

\*\*居住地域が不明確な場合は「山麓嚴重警戒」と記載。

表 1 - 3 対象範囲を付した噴火警報の呼び方及びキーワード（海底火山）

予報及び警報の名称	対象範囲を付した警報の呼び方	対象範囲	警戒事項等 (キーワード)	火山活動の状況
噴火警報	噴火警報(周辺海域)	周辺海域	海底火山及びその周辺海域で警戒 (周辺海域警戒)	海底火山及びその周辺海域に影響を及ぼす程度の噴火が発生、あるいは発生すると予想される。
噴火予報	-	直上	平常	火山活動は静穏。 火山活動の状態によって、変色水等が見られることがある。

